

# 平成22年度「市町議会と県議会との交流・連携会議」報告書案

## 1. 趣 旨

平成 21 年度に実施された「三重県議会との連携にかかる市町議会アンケート」及び「同ヒアリング」の結果、県議会との交流・連携が必要とする回答割合が極めて高い状況であったことを踏まえ、諮問会議第一次答申では、「今後さらに議論すべき主要課題」及び「期待される試行的取組とその検証」の中に、「市町議会と県議会との交流・連携」が盛り込まれたところである。

今回の交流・連携会議は、この答申を受ける形で県議会において内容が検討され、取組趣旨に賛同いただいた志摩市議会及び南伊勢町議会との協力の下、実施されたものである。

## 2. 実施方針

県議会から県内市町議会に交流・連携会議への参加希望を把握する際に示した実施要領は、次のとおりである。

### (1) 目 的

市町議会の高い意向がある県議会と市町議会との交流・連携について、双方にメリットのある取組としていくため、県内の複数圏域で試行的な取組を行い、その検証結果を反映させながら、県内全域での具体的な取組につなげていく。

### (2) 開催方法

当会議に参加する市町議会及び開催時期等については、市町議会の意向を把握し、協議・調整のうえ決定する。

なお、開催場所については、交流・連携会議に参加する市町議会の圏域を基本とする。

### (3) 出席者

全体で 20 名程度までとし、内訳は市町議会と県議会が協議のうえ決定する。

< 解説 > 限られた時間の中で全出席者が発言できるためには、最大で 20 名程度とすることが妥当と判断された。

### (4) 内容及び進行

議会改革諮問会議委員が会議全体を司会進行(コーディネート)し、2時間程度の意見交換を行う。なお、具体的な内容については、参加市町議会と県議会が協議のうえ決定する。

第一部：県議会からの提案事項

第二部：市町議会からの提案事項

< 解説 > 先のヒアリング結果では、市町議会の受け止め方として、県と市町の関係は対等と位置づけるものの、一面では上下関係で捉えられやすい状況がある。意見交換の場についても、何かを訴える場を求める意向もある。このため、議題設定については、県議会として提起するものと、市町議会から提起するものを対等に位置づけることが適切であると整理した。

### (5) 会議の公開

マスコミ、県民、議員も含め傍聴は可とする。

### 3. 経 過

平成 22 年 5 月 21 日 三重県市議会議長会総会において、「議会改革諮問会議第一次答申（市町議会と県議会との交流・連携を含む）」及び「市町議会アンケート、同ヒアリング」について説明。

平成 22 年 6 月 2 日 三重県町村議会議長会理事会において、「議会改革諮問会議第一次答申（市町議会と県議会との交流・連携を含む）」及び「市町議会アンケート、同ヒアリング」について説明。

平成 22 年 6 月 10 日 三重県議会議会改革推進会議役員会において、市町議会との交流・連携の試行の方針を検討。

広域圏単位で 2 箇所程度開催することとし、対象地域の調整にあたっては市町議会の意向を尊重する。

内容は、「県議会からの提案事項」及び「市町議会からの提案事項」とする。 など

平成 22 年 6 月 11 日 三重県議会から県内市町議会へ実施要領を送付し、参加希望を把握する。＜会議の候補日＞9/1、9/2、9/16、9/17

平成 22 年 7 月 15 日 三重県議会議会改革推進会議役員会において、市町議会からの回答結果を踏まえ、交流・連携会議の対象地域及び日程等を検討し、9 月 2 日に志摩市議会及び南伊勢町議会と会議を志摩市で行うことを調整し、当日、結果を各市町議会へ連絡。

＜参考＞志摩市及び南伊勢町のほか 2 市町から参加希望あり。なお、候補日は 9 月定例会の日程と重なっており、調整困難とする市町議会が多くあった。

また、出席議員数については、人口規模や条例議員定数を考慮し、県議会 10 名程度、志摩市議会 6 名程度、南伊勢町議会 4 名程度とした。

平成 22 年 7 月 20 日 三重県議会代表者会議において、市町議会との交流・連携会議の内容について、議会改革推進会議から報告。市町議会からの提案テーマにより、関係する常任委員会の参加協力を依頼。

平成 22 年 7 月 22 日 3 議会（志摩市、南伊勢町、県）の事務局間で事務打合せを行い、市町議会からの提案テーマ及び出席議員の調整について協議。

平成 22 年 7 月 28 日 第 5 回三重県議会議会改革諮問会議において、市町議会との交流・連携会議の予定について、県議会から説明。

平成 22 年 8 月 6 日 志摩市議会及び南伊勢町議会において、市町議会からの提案テーマについて協議が行われ、「志摩地域における地場産業の活性化」と決定される。

平成 22 年 8 月 11 日 3 議会（志摩市、南伊勢町、県）の事務局間で事務打合せを行い、会議資料や会場・設備、報道機関への情報提供方法などについて協議。

平成 22 年 8 月 20 日 三重県議会議会改革推進会議役員会において、市町議会からの提案テーマ及び出席議員数などについて確認。

## 4. 実施概要

### (1) 日時・場所

平成22年9月2日(木) 14:00～16:40 志摩市役所6階委員会室

### (2) 参加市町議会及び参加者

議会名	役職	氏名
志摩市議会	議長	森 昶
	副議長	小河 光昭
	総務財政常任委員会委員長	西崎 甚吾
	教育民生常任委員会委員長	杉本 三八一
	産業建設常任委員会委員長	坂口 洋
	議会運営委員会委員長	濱口 三代和
南伊勢町議会	議長	上村 久仁
	副議長	松葉 和久
	産業建設常任委員会委員長	沢村 圭也
	総務財政常任委員会委員長	岡本 眞
三重県議会	議長	三谷 哲央
	副議長	森本 繁史
	議会改革推進会議会長	萩野 虔一
	議会改革推進会議副会長	中村 進一
	議会改革推進会議副会長	岩田 隆嘉
	議会改革推進会議幹事	奥野 英介
	議会改革推進会議監事	津村 衛
	防災農水商工常任委員会委員長	末松 則子
	防災農水商工常任委員会副委員長	辻 三千宣

法政大学教授 廣瀬克哉氏(三重県議会議会改革諮問会議委員)

以上のほか、3議会の傍聴議員、事務局職員など 計約60名

### (3) 進行

全体：三重県議会議会改革推進会議会長 萩野虔一

意見交換：廣瀬克哉氏(法政大学教授、三重県議会議会改革諮問会議委員)

### (4) プログラム

#### 1. 開会(14:00～14:10)

挨拶(3議会議長) 出席者紹介

#### 2. 意見交換(14:10～16:30)

##### (1) 県議会からの提案事項(14:10～15:15)

「今後の地方自治制度の中における議会の位置づけについて」

提案説明：廣瀬克哉氏

<解説> 自治体議会全般に共有されている大きな課題を取り上げ、それに対応していく際にも、市町議会と県議会が同じ立場で取り組んでいける種類の課題を設定することとした。

現在、地方自治法の抜本改正についての議論が地方行財政検討会議で進められており、首長と議会の関係、或いは今後の議会制度の在り方について議論が既に行われつつあることから、これを具体的な議題として設定した。

<休憩 10分程度>

(2)市町議会からの提案事項(15:25～16:30)

「志摩地域における地場産業の活性化について

- 農林水産業の振興と観光産業の活性化 - 」

提案説明：志摩市議会議長、南伊勢町議会議長

<解説> 複数の市町にわたる圏域の課題を共有しつつ意見交換できる議題として、志摩市議会及び南伊勢町議会の双方で検討・調整された。

3. その他(16:30～16:35)

市町議会と県議会との交流・連携の在り方について

4. 閉会(16:35～16:40)

挨拶 三重県議会副議長 森本繁史

## (5) 県議会からの提案テーマにかかる意見交換

議題：「今後の地方自治制度の中における議会の位置づけについて」

提案説明：廣瀬克哉氏（法政大学教授）

### 1．地方自治法抜本改正に向けての検討状況

2010年1月に総務省内に地方行財政検討会議が設置され、現在、2つの分科会に分かれて、地方自治法抜本改正案を検討中。第1分科会の第4回会議（7/30開催）において、長と議会の関係について素案が提示された。

### 2．地方自治体の基本構造に関する案

#### (1) 基本構造のモデル案

現行の二元代表制を基本としつつ、地方公共団体の判断でこれとは異なる基本構造を選択できるとし、首長と議会との分離・融合の軸に沿って4案と、別種の2案が提案されている。（資料参照）

純粹分離型モデル（議会と長を分離する純粹な二元代表制とするもの）

現行の二元代表制

特別職の兼職許容モデル（議員から副知事・副市町村長を選任するもの）

議員内閣モデル（議員から数名の内閣構成員を選任するもので、イギリスの「公選首長と内閣制度」が参考）

「自治体経営会議」モデル（議員その他外部人材からなる合議体を設けるもの）

多人数議会と副議決機関モデル（多人数議会又は住民総会と副議決機関が併存するもの）

それぞれの議会でのどのように受け止めるか。各選択肢にはどんな課題があるのか、あるいはこれまで以上に議会が活発に活動していくためのチャンスが秘められているかを議論する素材としていただきたい。

#### (2) 共通する課題意識

議会の役割と責任の明確化が期待されているが、有力な議員を首長の部下として使える体制を作ろうとする意図が伺える。

また、大都市や広域自治体に向く制度と、中小規模の自治体に向く制度とは異なる。

#### (3) 見え隠れしている課題意識

地域社会の縮図としての議員構成を目指しており、大規模多人数議会や住民総会をやったらどうかという提案の中には、そういう意図が強く出ている。

### 3．議会としての選択を意識しながら見解を示す必要

60年に1回の地方自治法抜本改正の機会ではあるが、選択肢、制度設計を誤ると、自治体運営が停滞する恐れもある。

議会のあり方について適切な判断ができるのは、まず第1に議会であり、議会内や議会間の議論を展開し、議長会等を通して国の検討プロセスに反映する必要があるのではないか。

## <意見交換での主な意見>

(○志摩市議会、□南伊勢町議会、◇三重県議会)

- ◇「地域主権改革」という議論が始まり、議会の在り方、議会制度が基本的に見直されている一つの時代の節目であり、しっかりと議会論について議論しなければいけない。
- ◇首長によっては、議会はどちらかと言うと邪魔なもの、抵抗勢力だと捉えられているのでは。マスコミ等も含めて、議会が悪者であるという風潮が一部に流れており、議会人の一人としてしっかりと危機感を持って対応しなければいけない。
- 議会よりも執行権を持つ首長の方が力関係がずっと強いという思いはある。説明にあったモデルが国の方で制度化に向けて検討されていると考えると恐ろしい。
- 声を大きく上げた首長の方向でこの改正が進み、議会側の意見が全く無視されている。決定する前に議会としても方向性の案を出していかないと大変なことになる。
- ◇議会不信を払拭しない限り、議会としての存在意義がなくなる。そのためには、現況の二代表制を充実させていく以外にない。議会改革をきちんとやって、誰から見ても議会の情報がきちん公開され、議論もしているという、議会の姿をどう作り上げていくかという議論を今やらないといけない。
- ◇現行が二代表制とは言え、一元代表制に近い。議会が財源を持てばかなり強いものになってくるのではないか。
- 議会改革といっても、県議会レベル、市議会レベル、町議会レベルでは違った形がある。自分たちの議会では、各議員が住民にオープンにいろいろな意見を聴く、こちらから出向いて話を聴きに行く、そのような形で議会活動を行っている。
- ◇量の改革をずっとやってきたが、県民の皆さんにとって「これが」という、いわゆる質の改革に今、舵取りをしていくべきである。

## (6)市町議会からの提案テーマにかかる意見交換

議題：「志摩地域における地場産業の活性化について

－農林水産業の振興と観光産業の活性化－

提案説明：志摩市議会議長、南伊勢町議会議長

### 志摩市議会

#### 1. 現状と課題

- 地形的に南北に長い三重県は、政治・経済とさまざまな分野で南北格差というものが歴然としており、伊勢志摩地区は、企業誘致には不向きな環境にある。
- 恵まれた資源、いわゆる観光資源としては次のものがある。
  - ・万人の方が認める伊勢神宮をはじめとする歴史文化資源
  - ・全域が伊勢志摩国立公園の中にあるという風光明美な自然環境
  - ・古代・万葉の時代から、「御食つ国」として著名な新鮮魚介類の宝庫等々を含め、他の地区よりも絶対に特化された特徴という素材

○地域の課題としては、次のようなものがある。

- ・耕作放棄地の増加と獣害被害の深刻化
- ・生活排水の汚染、ヘドロの蓄積、磯やけ等々の影響による沿岸漁業の水揚げの不振
- ・真珠養殖業の壊滅的な不振
- ・アオサの養殖業の漁獲高の減少 など

## 2. 今後の方向

観光客の誘致には、特に「食」が本物であることが重要であり、荒廃農地の解消や、豊かな海を取り戻すため、以下の事業を展開していく。これらは、一団体、一自治体の段階で解決できるものではなく、国レベルの計画やプロジェクト等で事業展開をしていくためにはどうしたらいいか、突き詰めた議論が必要である。

- ・磯やけ対策重点地区指定
- ・生活排水規制に関する条例の制定
- ・ヘドロ解消の為の浚渫事業
- ・真珠養殖業へのてこ入れ
- ・耕作放棄地の解消
- ・就農しやすい環境づくり
- ・獣害対策
- ・里地・里山の保全

## 南伊勢町議会

### 1. 現状と課題

#### (1) 漁業・農村

○急傾斜地や狭隘な地形の条件不利地域に立地し、地震や津波、高潮対策の必要性があり、また過疎化や高齢化が進んでいる。

○魚価の低迷、燃油の高騰、資源の減少等、依然として厳しく、漁家経営、漁業経営ともに非常に難しくなっている。

○漁協においても、漁家の減少や経営不振から統廃合を余儀なくされ、漁場造成、種苗放流といった投資的事業に取り組む余裕がなくなっている。

※このため、公的支援の拡大といかに6次産業化を図るかが課題。

#### (2) 農業・農村

○平坦部が少ない地形のため、収益性に乏しい。

○獣害による耕作放棄地が増加するなど、農業離れが進んでいる。

○地形条件や後継者不足等の理由により、集積化、集落営農化が進展しない。

○木材価格の低迷等から放置林が増え、自然林とともに荒廃が進んでおり、これらが獣害の原因ともなっている。

※このため、後継者不足の解消、公費助成による生産者負担の軽減、獣害対策、農業の6次産業化をどう進めるかが課題。

#### (3) 観光

○体験や学ぶ観光への取り組み、修学旅行誘致の効果から、日帰り客は増加傾向にあるが、宿泊客は減少傾向となっている。

○入り込み客数は増加傾向にあるが、町内経済への波及効果は少ない。

○伊勢志摩地域は一つのブランドとして認知されていると思われるが、観光客の訪

れは地域的に偏っている。

このため、波及効果を生み出すためには農林水産業との連携が不可欠。

## 2. 今後の方向

農林水産業と観光業との連携が不可欠であり、農林水産業との連携仕組みづくり、リーダー育成、県・市・町の連携や、広域的な取り組みを進める必要がある。

また、現在、個々に点で活動しているいろいろな地域活性化グループを議会、行政が何とかして線にしていく施策を実践する必要がある。

### < 意見交換での主な意見 >

( 志摩市議会、 南伊勢町議会、 三重県議会 )

#### ( 基調提案に対する県議会の取組 )

基調提案いただいた課題については、地域連携、農商工連携の観点から県議会でも防災農水商工常任委員会で議論を行っているところ。

農業振興条例というようなものをできれば12月の議会には議決できるよう進めている。この条例には、獣害対策についても、三重県らしさ、三重県特有ということで項目も新たに入ってくると思われる。この条例をもとに基本計画あるいは第3次戦略計画につなげていけるよう議論している。

第一次産業については、しっかりと取り組んでいく。

観光振興条例も3月までには議会に出てくるようなので、常任委員会でしっかり取り組んでいきたい。

昨年度設置した地域経済活性化特別委員会では、地域の産業、中小企業をフォローするファンドの充実について執行部に提言した。

#### ( 地域の状況 )

点での活動は一生懸命やられているが、それをフォローしていく人が少ないのが現状。商品開発にも取り組まれているが、都市への移動代、発送代などで採算が取れないなど、いろんな面で大変苦労されている。

真珠の養殖産業が危機的な状況にある中、自分たちで組織を作って生産、加工、販売する6次産業の取り組みをしている団体もある。差別化ができるような仕組みを作っており、そういったところも知っておいてもらいたい。

英虞湾の区画漁業権は個人免許が非常に真珠業界で多い。漁場の整備、観光面の観点から、県で引き取ってもらえないか。

#### ( 農業振興条例 )

農産物、水産物の価格保障や、志摩の物が中勢、北勢の方まで流通する仕組みについて、知恵を出し合いたい。農業、漁業の振興条例にもそういう視点をぜひ入れていただきたい。

流通の強化、自給率の向上、耕作放棄地の解消などの取り組みについて、観光振興や、農業振興条例の検討の際に議論したい。

町独自で条例作りに取り組まれば、それにより議員が勉強することにもなる。



### (鳥獣害防止対策・農家戸別保障制度)

鳥獣害防止対策事業が時限立法によって今年で終わってしまうが、これについての防災農水商工常任委員長の考えは。また、今年から戸別所得補償制度で、1反当たり15,000円支給になるが、この金額についてどう思うか。

獣害対策は、三重県では絶対に欠かせない課題、対策をしていかなければならない課題であり、議会全体でもっと慎重に、かつスピードをもって取り組んでいかなければいけない。農家戸別保障制度については、超党派で委員会としてもう少し現場の皆さん、農業団体の皆さん、生産者の皆さんからご意見をいただければならないが、まだ現実に制度が始まったばかりなので、慎重に見させていただきたい。

### (広域連携)

伊勢志摩から紀州までを広域的に考えていかないと南の中でも格差ができてくるのではないかと。こういう連携会議が第一歩となる。

「蟻の熊野詣」など、広域的な観光行政に取り組んでいる。高速道路ができて、素通りすることがないよう、個々の地域がそれぞれ知恵を絞っていかなければならない。

### (その他)

県立志摩病について、指定管理となっても、医者等の確保と今までのような病院の継続をお願いしたい。住民もそのように思っているので、しっかり応援してほしい。

## (7) 市町議会と県議会との交流・連携の在り方について

3人の議長からの意見は次のとおり。

この交流・連携会議の落とし所、結論は何を望んでいるのかが分からなかった。事前にもっと的を絞った形の提案であってほしい。

志摩市議会議長の意見に同感だが、こういう意見交換の場をどんどん作っていただいて、三重県のために、我々自分の地域のためにしっかりと頑張りたいと思う。ぜひまたこういう機会があればよろしくをお願いしたい。

非常に限られた時間で、なかなか議論が噛み合わなかった部分がたくさんある。今回は、できるだけお互い、情報・課題が共有できるような、そういう場になればとの思いで提案をさせていただいた。国の今の地域主権改革の議論から鳥獣害対策まで、かなり幅広い議論となったので、少し焦点がぼやけた感じがする。今回の反省を踏まえて、次回はもう少し個々具体のテーマに絞った形でお互い議論ができる場に上げていきたい。